

News Letter

Center of Research for
CMM (Creative Music
Making)

第7回 CMMニュースレター

さて、お盆も終わり2学期目前ですが、いかがお過ごしでしょうか。災害に見舞われた方も多く、胸の痛む夏でもありました。大変遅くなりましたが、ニュースレターとして第7回CMM研究会の活動を報告いたします。

第7回CMM研究会 臨時CMM研究会 夏のスペシャルセミナー

「やってみたい！」から始まった、アフリカンドラムの一日

2026年8月4日（火）9:30-12:00 会場：練馬区立田柄小学校 音楽室

講師：近藤真子（文教大学教育学部）

企画・運営：荻野靖子先生

【第7回 臨時CMM研究会（夏のスペシャルセミナー活動報告）】

「秋の音楽会に、即興を取り入れてみたい！」

今回のCMM研究会は、そんな一人の音楽の先生の **Curiosity**（好奇心）から始まりました。

「それなら、やりましょう！」その一言から、現場の先生方があっという間に企画を立ち上げ、臨時CMM研究会 夏のスペシャルセミナーが実現しました。

テーマは、「授業や音楽会に、アフリカンドラムの活動を取り入れてみたい！」

当日は、先生方が **Myジャンベ** を抱えて集合！なんとプラスチックのゴミ箱を持参した先生も！さらに、CMMのメンバーからも沢山のドラムを持参、音楽室には朝からいろいろな太鼓がずらり。

さあ、どんな音楽が生まれたのでしょうか？

Part1 ♪ まずは、ドラムで「はじめまして！」

最初は、ドラムを使った自己紹介からスタート！隣のひとと、一定の拍をドラムで刻みながら「朝、何を食べてきましたか？」とおしゃべりします。慣れてきたら、さらに複雑なリズムを叩きながら「アフリカンドラムの経験は？」の対話でレベルアップ！

実はこれ、ただの楽しい自己紹介ではありません。ドラムを指導するときには大切なのは、「叩くこと」だけに集中しすぎないこと。リズムを刻みながら話したり、周りを見たり、相手の音を聴いたりすることで、リズムを身体の中に感じながら、自然に音楽を続けられるようになっていきます。そんな大切なポイントを、まずは自己紹介を通して感じ取っていききました。

最初は少し戸惑いながらも、叩きながら話している内に、あちこちから笑い声が聴こえ始めます。皆の表情もどんどんほぐれていきました。そして最後は全員で輪になり、一人ずつ、「〇〇学校の△△です。今日は〇〇を楽しみに来ました！」ドンドン♪ パッ！パッ！と、ドラムで合いの手を入れながら自己紹介をしていきました。「楽しみながら、笑顔になりながら、実はドラム指導の大切なポイントも学んでいく」、そんなCMMらしいスタートになりました！



♪ モントリオールから届いた「アフリカンドラム」の素敵なお話

セミナーの前週、モントリオールで開催されたISME（世界音楽教育学会）で、世界的パーカッショニスト **Bashiri Johnson** さんのワークショップに参加した近藤先生。そこで学んできた素敵なお話を、映像とともにさっそくみんなに共有していただきました！

「宇宙にも、地球にも、私たちの中にもリズムがある」

「右、左、と歩けるなら、もうあなたはドラマー！」

Bashiriさんの言葉を感じながら、みんなで歩いて、叩いて、リズムを楽しみました♪



* Bashiri Johnsonさんは、マイケル・ジャクソン、マドンナ、ホイットニー・ヒューストンなど、世界的アーティストたちと共演してきたパーカッショニストです。

Part2 ワークショップ

♪ 叩く！歌う！聴く！つながる！

ここからは、さらに音楽室の熱気がアップ！近藤先生がアフリカの音楽家から直接学び、アメリカの学校でも子どもたちと楽しんできた活動を、今回は皆に「口伝」していただきました。

♪ Fun, Fun, Fun

♪ Take Time in Life

楽譜はありません。まずは動きを見ながら、音をよく聴き、真似をして、身体でリズムを感じることから始めます。大切なのは、仲間を見て、音を聴いて、みんなで同じリズムを感じることに。これは子どもたちと活動するときと同じです。誰かの音を聴き、そのリズムに応え、少しずつみんなの音が重なっていく——。

いつの間にか音楽室には、みんなでビートを共有する、あたたかな空間とグルーブ感が生まれていました。口伝だからこそ味わえる、アフリカンドラムの魅力です♪

そして最後は、自分たちのドラム・アンサンブルづくり！

これまで体験したリズムをヒントに、先生方がお互いにアイデアを出し合いながら、オリジナルのドラム・アンサンブルをつくりました。

「このリズム、おもしろい！」「ここに違う音を重ねてみよう！」「もう一回やってみよう！」叩いて、聴いて、試して、変えてつくっていきます。

大切なことは、自由に音を出せること、友だちの音をよく聴くこと、そして「いいね！」「やってみよう！」と互いのアイデアを受け止め合うことです。子どもが安心して試行錯誤できる時間と場があることで、一人ひとりのアイデアが仲間の音とつながり、少しずつ音楽へと育っていきます。

フィナーレは、全員で大ドラム・アンサンブル！音が重なり、身体が動き、笑顔が広がり、音楽室は大盛り上がり！即興すること、仲間と聴き合うこと、そして「自分たちの音楽をつくる」楽しさをみんなで味わいました。



<ドラム・アンサンブルの様子>

近藤 真子先生より — 「Curiosity！」から次の音楽がはじまる。

今回の臨時セミナーは「秋の音楽会に、即興を取り入れてみたい！」

という、一人の先生の Curiosity（好奇心）からはじまりました。

「やってみたい」という小さな思いに「いいねー！」「やってみよう！」

と仲間の先生が応えます。するとどんどん人がつながり、楽器が集まり、アイデアが生まれ、こんなにも楽しい音楽の時間が生まれました。

教育を動かすのは、案外こんな小さな Curiosity なのかもしれませんね。

「子どもたちと、こんなことをやってみたい」「いつもの授業を、ちょっと変えてみたい」そんな先生のワクワクや思いは、きっと子どもたちにも伝わるはずです。この日生まれた音やアイデアがそれぞれの学校へ持ち帰られ、今度は子どもたちの「やってみたい！」と出会って、また新しい音楽になっていくのうれしいです。

CMM研究会では、これからも、みんなでたくさんの「やってみたい！」を育てていきましょう♪



今後のCMM研究会

12月19日（土）「ラップ音楽づくりで楽しもう！」— 指導と実践、そして展開 —

12月20日（日）作曲家・野村誠さんと楽しむインクルーシブな音楽づくり

詳細は、あらためてご案内いたします。次のCMM研究会で、お待ちしております！

（文責：熊倉佐和子・近藤真子）